第56回滋賀県芸術文化祭　第76回滋賀県文学祭　«入選一覧»

小説

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	鵺	佐藤　駿司
入選	あなかしこ	夕住　凛
入選	琵琶湖フィッシャー・アーキテクト	林　知子
入選	死の都	河合　良三
入選	夢のあとに	俵谷　誠
入選	アラフォー公務員試験	蜘蛛野　澄香
入選	従者通訳の反抗	谷口　俊明
入選	ぼうしのはなし	大河　増駆
入選	水之守顛末記	竹内　宇瑠栖
入選	枯淡	松岡　比良乃

随筆

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	地蔵様がなくなる	田中　義宏
入選	ふるさと散歩	大林　等
入選	抜き差しならないとき	大河　増駆
入選	幸せの物差し	上野　初子
入選	三度目の遭遇	陸田　京介
入選	程々に自然体で生きたい	寺井　一二三
入選	私のかかりつけ医	澤野　みき
入選	レクイエム	吉野　幸夫

詩

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	凡人Ｘ	分福　凡夫
入選	徘徊びより	山根　悠謳
入選	球体回廊	原馬　正文
入選	少年と柿	谷　敏子
入選	長浜のコウノトリ	澤野　みき
入選	この橋を降りたい	日下　そよ

作詞

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	青空レモネード	叶　葉湖
入選	夢のあと	松本　佐知子
入選	夢の玉手箱	古橋　童子
入選	大溝惣門	松井　乾
入選	サルスベリの下で	分福　凡夫

短歌

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	筆太の母の字「昭和六十三年」開ければ甘い香りの梅酒	小倉　文枝
入選	口軽きめぐり危ぶみかたくりの咲く地明かさぬまま友逝きぬ	木村　正子
入選	愛し合う二人のようねかなぶんに抱きしめられる洗濯バサミ	松田　翔
入選	口ずさむ花の名は皆この道を母と歩いた時間の証	伊藤　友紀
入選	少しずつ遺影色褪せ曾祖母（おおはは）に連らなる先祖となりぬる、母は	深堀　英子
入選	治療待つ夫の気持ち覗き見る手元は孫の動画のスマホ	山本　和子
入選	炎天に草引くわれの背に降る「気をつけなはれ」自転車の声	甲賀　太郎
入選	子供達（こどもら）は遠まきにしてつつくのみ父の出番のカブトムシ来る	井上　とわ
入選	父と二人ただきれいやなあと呟いて母に見せたき桜見上げる	吉川　恵子
入選	なつかしいステファンがすむヴッパータール小説にみつけたペンパルのまち	瀬田　しじみ
入選	はるばると九十年を歩み来し手足動かす黒き畑土	万木　筆子
入選	「癌なんや」告げし吾が身を気遣ひて薬をおやつのごと飲みをりし	友田　友憲
入選	雪伊吹「ウルル」のごとく鎮まりて枯れ野のきぎす琅玕とあり	下野　たづ
入選	昨日とは少しずれたる蛍光ペン揺るる「私」の重要な位置	中村　宣之
入選	冷んやりと清しき雨が手探りで近づき通夜のわれを慰む	船岡　房公
入選	何故そこと遺影の吾子に問ふけれどきつと貴方も驚いてるね	青野　みやび
入選	未来とは食べることなり「お代わり」の児の聲清か盆の円居に	銭谷　ふさ子

俳句

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	姿見の中も若葉の風が吹く	柴原　忍
入選	茶の花や過疎を守りて村十戸	髙田　千鳥
入選	道灌の文字は白抜き夏暖簾	船岡　房公
入選	ヘリの音酷暑の空をかきまぜて	田中　ゆう
入選	珈琲の落つる遅さや秋を待つ	小早川　悦子
入選	魚簗打の音を辿れば鷺の待つ	服部　宏子
入選	嵯峨の秋恋乗せ走る人力車	福島　一美
入選	洗濯機汗の重さを放り込む	北村　嘉浩
入選	背（せな）で聴くびわこ花火の警備員	横川　和醸
入選	一塊の雲天蓋にして山眠る	藤江　夕映
入選	まづ空へ大きひと振り捕虫網	北村　環
入選	石楠花や比良に険しきけもの道	村片　秀哉
入選	草の芽やもうひと息の逆上がり	林　尚子
入選	下駄ひとつ買うて残暑の蚤の市	浦谷　紫香
入選	亀鳴くや猪口ひと口の世界観	山路　幸子
入選	観音の小鼻ふつくら山笑ふ	飯村　祐知子
入選	しつらへを替へて静かに涼を待つ	堀竹　善舟
入選	大玉の西瓜儀式の様に切る	鎌田　佐智子
入選	カーナビに無い道を行く盆旅行	山本　謹司

川柳

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	不揃いを並べ変えると光る家	早田　弘子
入選	生家はいま静かな寝息たてている	佐野　清美
入選	「帰りたい」一度も言わぬまま母は	竹原　春江
入選	近江富士我家のように紹介す	梶川　孝子
入選	チャイム押す家がほどける音がする	北垣　桂
入選	家中のネジをやさしく巻いている	村片　芳子
入選	父母が居て私が私になれた家	浅田　ヒロ子
入選	この家の最後の一人過疎に老ゆ	髙山　清子
入選	暗がりはやさし田舎のばあちゃんち	木下　香苗
入選	ひとつずつかたちになっていった家	粟津　克宏
入選	ひんやりとした自由であったお留守番	山本　知佳子

冠句

賞	受賞作品	氏名・筆名
入選	変化球　諦めた壁飛び越える	小林　恭子
入選	沃野立つ　我が生業に誇り持ち	平井　一粋
入選	機微にふれ　もてなす所作に解(ほど)けゆく	西村　喜代美
入選	沃野立つ　我が心身を造り上げ	落合　福子
入選	機微にふれ　震える肩をそっと抱く	中川　治男
入選	沃野立つ　先人の労報う粋	小西　宏
入選	変化球　明日見つかるか病む母に	白井　まさ江
入選	機微にふれ　静けさに聴く祈りの音(ね)	叶　葉湖
入選	機微にふれ　秘めた引き出しそっと開け	中田　友行
入選	機微にふれ　頷く尼僧瞳の深き	松瀬　光